

令和7年度 西都市立都於郡小学校 学校評価

【学校ビジョン】

凡事徹底～教員として、学校としてあたりまえのことを懸命に取り組む～
 ○ 子どもと真摯に向き合う ○ 授業を大切にする ○ 自己研鑽を続ける

評定：4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

重点 目標	評価項目及び指標	結果の考察・分析・改善点	児童 評価	保護者 評価	教職員 評価	運営協議会 委員評価	運営協議会委員コメント
3 要素を意識した学力向上	1 教師の授業力向上 ○ “ひなたの学び”を意識した授業改善 ○ タブレットをはじめとしたICT 機器や教材備品等を活用した授業の構築	○ 「ひなたの学び」を意識した職員研修を実施し、全職員で課題を共有し、課題解決に向けた改善策を検討することで、授業改善につなげることができた。 ○ 相互授業参観を行うことで、他の先生の説明の仕方、板書の工夫、子どもへの声かけ、評価の仕方などを参考にしたり、自らの授業を振り返る機会となったりして、これまで気づけなかった改善点に気づくことができた。 ○ 学んだことを次の学習に活かすためには、振り返りの時間を十分に確保する必要がある。 ○ タブレットの活用は進んでいるものの、学年によって活用の程度に差が見られるため、ICT支援員の活用をさらに促進していく。	3.4	3.1	2.9	3.1	○ 先生方が授業をいろいろ工夫されていると感じる。 ○ 教職員より児童の評価が高いので、教職員は自信をもってよいと思う。 ○ 音楽の発表会は素晴らしく感動した。指導力の賜物だと思う。 ○ 高学年は、もう少し積極的な学びが欲しいと感じた。 ○ 自宅での様子から、タブレットの操作等がしっかりとできているように感じる。 ○ ICT の利用と合わせて、メリット・デメリットの指導が大事だと考える。 ○ ICT の有効活用ができる教職員の育成とICT 支援員の積極的な活用が重要だと感じる。 ○ ICT 活用については、有効性が期待される一方で、読む力などの基礎的な力との関係は慎重に考える必要がある。そのため、学校として教職員間で十分に議論しながら進めてほしい。 ○ ICT の活用が大切だと思うが、ICT が苦痛にならないように工夫してほしい。

	2 特別支援教育の充実	○ ユニバーサルデザインの授業の構築と環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての児童にわかりやすい板書や声かけを意識し、教材の工夫を行うことができた。 ○ 全職員で有効な手立て等の情報共有を積極的に進めていく。 ○ 外部機関と連携しながら通級指導教室を実践することで、すべての児童が学びやすい教育の実現を図っている。 	3.8	3.2	3.3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童に寄り添った対応が感じられる。 ○ 授業を参観した際に、担任の先生がわかり易い板書や声かけをされていて、児童に対して配慮していることが印象的であった。 ○ 教職員以上に児童の評価が高い。児童が「わかる、できる、楽しい」と感じていることが伝わる。 ○ 少人数だからこそ、個々の困り感がよりわかり、対応しやすいと思うので、「すべての児童にわかりやすく」を意識した指導を今後も継続してほしい。
3 要素を意識した学力向上	3 本物に触れる教育活動の推進	○ 年間指導計画にそった「さいと学」の実施及び工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域人材や専門機関を活用することができた。来年度も今年度同様に活用を進め、地域と連携しながら児童の学びを充実させていく。 ○ 「さいと学」の学びを通して、西都の良さを実感し、地域を誇りに思う気持ちを育てていくとともに、教師自身も地域に根差した教育のあり方を見つめ直し、地域とともに歩む姿勢を育てていく必要がある。 	3.7	3.2	3.4	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域と連携したり、外部講師を活用したりして、児童の確実な理解につながっている。 ○ 3年生の非行防止教室では意欲的に学ぶ姿が見られた。 ○ 「さいと学」は地元のことをよく調べていると感じた。 ○ 「伊東マンション」についてはよく学び、児童も理解を深めているように感じる。このような学びが地域を誇りに思う気持ちにつながると思う。 ○ 城址祭りについては天候に左右されるところが多いが、中学生が朝から参加している姿を見ることも地域で育つ児童にとって大きな学びになると感じる。
	4 基礎・基本の徹底	○ AIドリル等を活用した繰り返し学習の取組および家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習内容に沿った家庭学習を行うことができ、デジタルドリルを家庭学習として活用することができた。 ○ 家庭学習の定着が十分でない児童もいるため、家庭と連携しながら定着を図る必要がある。 ○ 宿題の量や質を学年間で調整し、系統性のある家庭学習を目指す。 	3.4	3.1	3.0	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の定着が十分でない児童を把握し、家庭と連携して家庭学習が定着できるような手立てをうってほしい。 ○ 家庭学習の定着が十分でない児童がいるとのことだったので、家庭と連携して学力差につながらないように努めてもらいたい。

	<p>1 自治活動を通して主体性を育てる学級づくりの推進</p>	<p>○ 学級活動（朝の会、帰りの会、係活動等）の充実</p>	<p>○ 朝の会、帰りの会等でスピーチ活動を実施するクラスが増えた。スピーチ活動が、話し合い活動に活かされるように継続して実施していく。</p> <p>○ 当番活動だけに取り組んでいる学級があるので、係活動に取り組み、自主性や協働性の育成を目指す。</p>	3.7	3.3	3.0	3.5	<p>○ スピーチ活動が増えたことで、児童が自分の言葉で意見が言えるようになるため、今後も継続を望む。</p> <p>○ スピーチ活動を実施する学級が増えたということは、人前で自分の意見を述べることにつながり、素晴らしいことであるので、全クラスに波及することを期待したい。</p> <p>○ 朝の会や帰りの会でいろいろな取組を行っていることを感じた。</p>
<p>明るく楽しい学校生活の実現</p>	<p>2 いじめや差別のない、思いやりの心を育成</p>	<p>○ 年間計画をもとにした道徳科教育、特別活動の完全実施</p> <p>○ 心のアンケート、教育相談の計画的な実施</p>	<p>○ 年間計画に沿って、道徳科教育、特別活動の完全実施をすることができた。</p> <p>○ 月1回の「なんでも相談アンケート」、個別の教育相談等で、児童の困り事にすぐに対応することができた。またスクールカウンセラーの活用も行うことができた。</p>	3.8	3.3	3.2	3.4	<p>○ 児童評価が高いので、今後もいじめのない、互いを思いやれる指導を継続してほしい。</p> <p>○ 月1回のアンケートや個別相談、教職員の情報共有と迅速な対応を今後も継続してほしい。</p> <p>○ 学年に応じた人権教育が重要だと思うので、今後も取組をお願いしたい。</p>
	<p>3 危険予測・回避能力の育成</p>	<p>○ 機能性を重視した避難訓練（風水害、地震、ひき渡し、不審者）の実施・見直し</p>	<p>○ 避難訓練を計画的に実施することができた。訓練を重ねるごとに児童は避難の仕方を身に付けてきている。</p> <p>○ 職員間で避難経路や指導内容の共通理解が進み、緊急時の対応に対する連携が強化されてきている</p> <p>○ 実効性を高めるために訓練の多様性を高めていくように改善していく。</p>	3.8	3.4	3.3	3.2	<p>○ 在宅時に地震が起きた時の様子から、訓練の成果が感じられた。</p> <p>○ 避難訓練や防災学習がしっかりされていると感じた。</p> <p>○ 最近、全国で大きな地震が発生しており、両親が仕事の都合で家に帰れないなどのことも想定できる。そのことも踏まえたマニュアル策定も必要になると考えられる。</p> <p>○ 児童の安全が大事なので、訓練を今後も継続してほしい。</p> <p>○ 雷レーダーを活用した授業のなど児童の安全を守る教育をお願いしたい。</p> <p>○ 下校時に歩道のない道で広がって歩いている様子や遊びながら歩いている様子が見られるので、指導が必要だと感じる。</p>

健康の保持・増進	1 運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新スポーツテストの結果をもとにした体力向上プランの策定及び実施 ○ 運動時間を確保した体育科学習の実施及び外遊びの推奨 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新スポーツテストの結果から、昨年度よりも体力が向上していることが分かった。一方で長座体前屈や握力については伸び悩んでおり改善が必要である。今後は体育の授業における取組を工夫するとともに、家庭との連携を意識し、基礎的な体力の向上を図っていく。 ○ 運動時間や量を確保できるよう体育科学習の見直しを行い、熱中症が心配な時には学習内容を柔軟に入れ替えるなど安全面にも配慮してきた。さらに「みんなで遊ぶ日」を設定するなど、楽しみながら体力を高める活動を充実させ、児童の健やかな成長につなげていきたい。 	3.6	3.2	3.0	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「みんなで遊ぶ日」の取組はとても良い。今後も楽しみながら体力向上に取り組んでほしい。 ○ 外で遊ばない児童が増えており、少年団等で活躍している子とそうでない子の差がかなりあるように感じる。家庭と連携しながら基礎体力の向上を図ってもらいたい。
	2 食に関する指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ お弁当の日の充実、家庭科の学習、給食指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養教諭や外部講師を活用して食に関する指導の充実を図ってきた。お別れ遠足の時に取り組む「お弁当の日」の取組と合わせ、家庭との連携を強化して食育の定着を徹底していく。 	3.6	3.3	3.2	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部講師を活用した食育の取組を今後も活用してほしい。 ○ 「お弁当の日」の取組がとても良い。今後も継続してほしい。 ○ お弁当の日は、食に対して考える良い機会になると思う。

	<p>3 基本的生 活習慣の 定着</p>	<p>○ 早寝・早起 き・朝ごはん とあいさつの 励行</p> <p>○ ノーメディア デーの実施</p>	<p>○ さわやかチェック」の結果から、9月より11月の方が生活リズムの改善が見られ、特に早寝ができる児童が増えていることが分かった。早寝・早起き・朝ごはんの習慣は定着しつつあるが、挨拶についてはまだ改善の余地があるため、今後も全校で継続的に取り組んでいく。</p> <p>○ 毎月10日に実施している「家読の日」では読書活動を推進し、図書の貸し出し冊数からもその成果が確認できた。今後はノーメディアへの取組をさらに強化し、家庭と連携しながら健全な生活習慣の定着を強化していく。</p> <p>○ 児童、保護者、教職員で結果に差がみられたので、今後は同じ方向を向いて取り組めるよう、学校全体で理解を深めていく。</p>	<p>3.4</p>	<p>2.8</p>	<p>2.8</p>	<p>3.0</p>	<p>○ 元気よく挨拶ができない児童への手立てを考える必要がある。</p> <p>○ 集団の時は元気良いあいさつができるが、一人の時はあいさつをしなかったり、声が小さかったりしている。</p> <p>○ あいさつについては個人差を感じる。</p> <p>○ 誰にでも大きな声であいさつができるように学校全体で取り組んでもらいたい。</p> <p>○ 早寝ができる児童が増えていることは、心身の発達からもよいことだと思う。</p> <p>○ 読書習慣はとても大切なことなので、学校と家庭が連携して読書をする雰囲気醸成を培ってほしい。</p> <p>○ 図書の貸し出しについて昨年と比較すると増加しているとのことであり、今後も継続して推奨してもらいたい。話す力、聞く力、読解力を身に付けるためにも重要なことだと考える。</p> <p>○ 児童と教職員、保護者との差について原因を調べ、改善を図ってほしい。</p>
--	-------------------------------	---	---	------------	------------	------------	------------	--